

# 2021年度満足度調査(英コミ)

## 検証内容

今年度卒業の学生を対象として満足度調査を行った。質問にはカリキュラムの適切性や施設・設備・制度に関するもの、学生生活に関する質問を設けている。得られた回答は集計し項目毎の平均値を前年度のデータと比較した。また、本調査では、学修成果の到達度を学生に自己評価してもらっており、その結果と他の学内データと照らし合わせて総合的に分析した。

【アンケート回収率83.0%】(前年度84%)

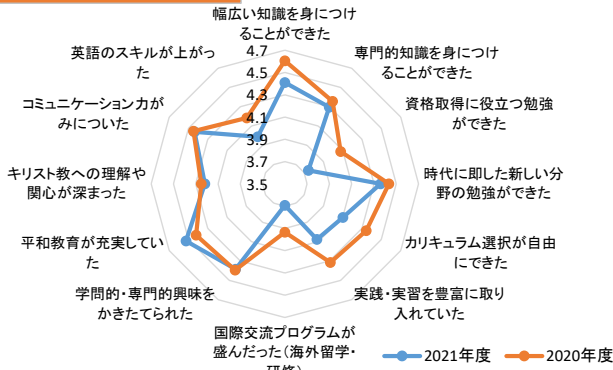
## 【カテゴリ毎の満足度】

各数値の基準

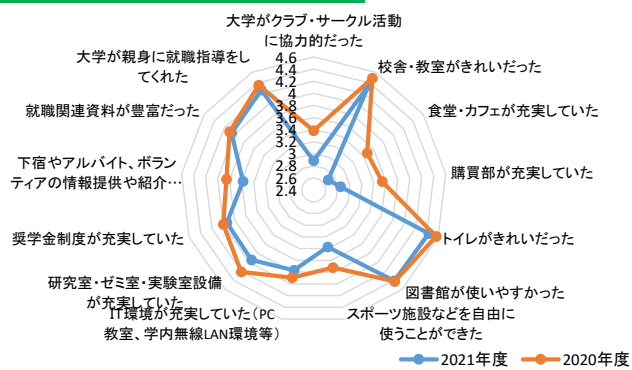
満足：5、やや満足：4、どちらともいえない：3、やや不満：2、不満：1

そう思う：5、ややそう思う：4、どちらともいえない：3、あまりそう思わない：2、そう思わない：1

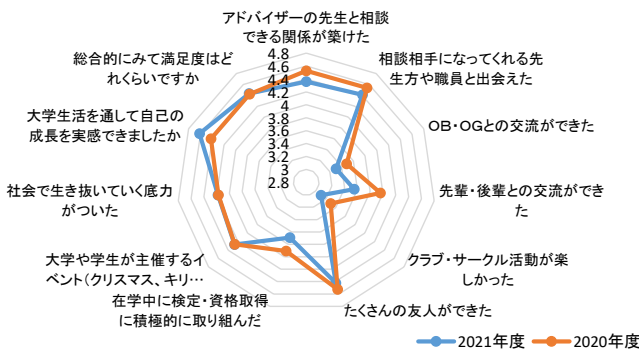
### カリキュラムの適切性



### 施設・設備・制度に関する満足度

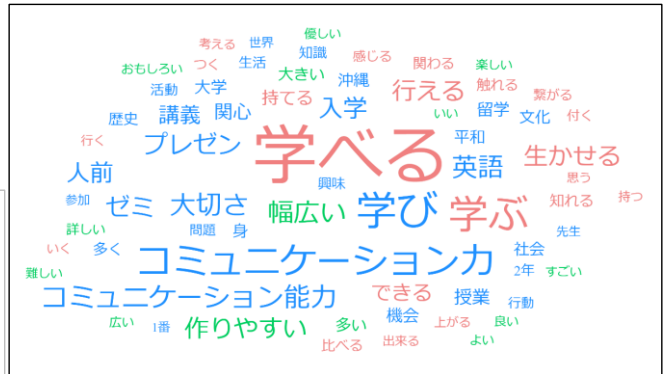


### 大学生活に関する満足度

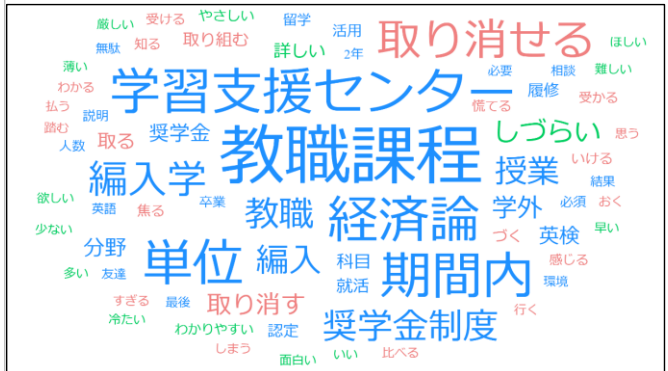


## 【学生からのコメントのテキストマイニング】

《一番学びの大きかったこと》



《早くに知っておきたかったことやつまづきを感じたこと》



それぞれの項目の平均値を出し、前年度の平均値とその変化率を計算し違いをみていきます。

#### 【カリキュラムの適切性】

12項目中、前年度より上がったのが1項目、下がったのが11項目で、当該カテゴリの満足度は総じて低い。前年度との変化率が5%を超える項目は次の4つであった。

- ・資格取得に役立つ勉強ができた(-8.2%)
- ・カリキュラム選択が自由にできた(-5.5%)
- ・実践・実習を豊富に取り入れていた(-5.5%)
- ・国際交流プログラムが盛んだった(-6.1%)

この中には、例年低い平均値の項目もあり、抜本的な改革が望まれる。

#### 【施設・設備・制度に関する満足度】

13項目中、全ての項目で満足度が下がっており、当該カテゴリの満足度は低い。変化率が5%を超える項目は6つであるが、コロナ禍の影響を強く受けるものであること、今年リニューアルした施設もあることから、今後の満足度の向上を期待したい。

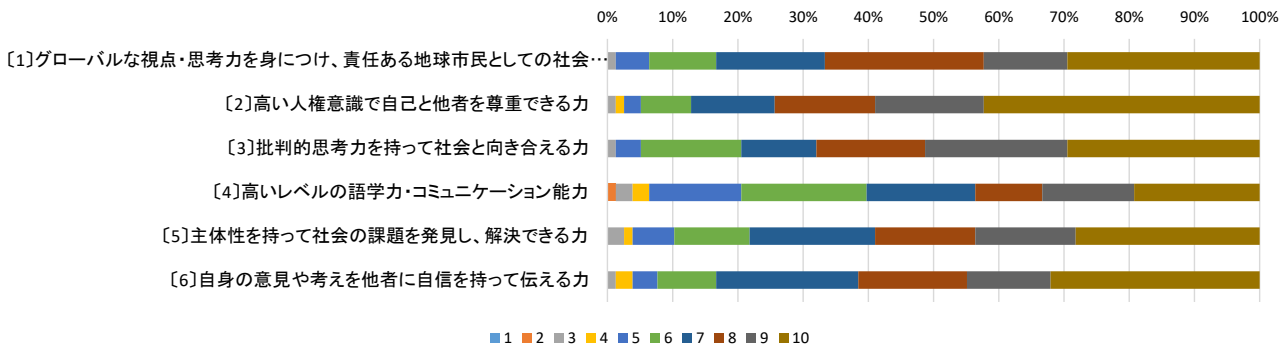
#### 【大学生活に関する満足度】

11項目中、前年度より上がったのが4項目、下がったのが7項目で、当該カテゴリの満足は、およそ下がっているとされる。変化率が5%を超える項目は次の4項目であった。

- ・OB・OGとの交流ができた(-5.1%)
- ・先輩・後輩との交流ができた(-10.3%)
- ・クラブ・サークル活動が楽しかった(-6.1%)
- ・在学中に検定・資格試験に積極的に取り組んだ(-5.5%)

5%弱向上している項目に「大学生活を通して自己の成長を実感できた(+4.4%)」があり、総合的な満足度も前年度とほぼ変わらない。

## 学修成果の自己評価



学生に対し本学で定める学修成果が卒業時にどれだけ身についたかを10段階で評価してもらった。

上のグラフから、項目[4]を除く5つの学修成果において、回答した60%以上が評価"8"以上をつけており、自己評価は高いといえる。学修成果[4]は比較的ばらつきがあり、評価"2"以下がつけられているのは、この項目のみである。また、先述した【カリキュラムの適切性】の項目にある「コミュニケーション力」と「英語スキル」の満足度、及び記述式のテキストマイニングをあわせて考えると、「コミュニケーション力」の修得には自信はあるが、「英語スキル」の修得には自信がない、という状況がみえてくる。